

〔演習B：インシデント・プロセス〕

豊田西病院 医師 小野宏氏

インシデント・プロセス法は、自分の無意識の力を使って現場で問題解決ができる手順です。「考えること」と「やること」を区別し、「やること」に焦点化して、より効果的な解決策を見出します。普段の支援で行き詰まったり、困ったりした場合の有効な手段となります。



〔演習C：ワールド・カフェ〕 講師 愛知県知的障害者福祉協会 研修委員会

ワールド・カフェは、カフェのようにリラックスした雰囲気の中で、互いの立場を理解しながらディスカッションを行い互いの意見を伝え合い、相互理解を深めて組織力を高めていくものです。新たな会議や会合、意見交換の進め方として注目されています。

2日目を演習プログラムにしたことにより、とても活発な意見交換を行われて



いました。それぞれ参加者の立場は違いますが、共生社会実現に向けて“私たちができること”を探求し、日々の実践につなげることができたと思います。

平成30年度新役員

役職	氏名	所属
理事(会長)	川崎 純夫	サンフレンド
理事(副会長)	磯村 有吾	あじま作業所
理事(副会長)	松下 直弘	岩崎学園
理事(副会長)	阪田 征彦	障がい者支援施設むもん
理事(副会長)	熊谷かの子	わらび福祉園
理事	成瀬 陽子	豊田市こども発援センターひまわり
理事	榎本 博文	障害者支援施設ひまわりの風
理事	菅沢 豊	青空の家
理事	高野 浩昌	ぬくもりワークス
理事	渡部 等	愛光園地域居住サポートセンター
理事	雲出 道博	ガイア相談支援センター
理事	都築 重喜	(福)相和福祉会
理事	加藤 貫一	若草学園
理事	田中 友久	愛知県知的障害者福祉協会事務局長
監事	高濱 潔	(福)あさみどりの会
監事	岩田 元	タックスワン中部

お知らせ

この「Aichi Aigo News」は LINE 及び Facebook でもご覧になれます。下記の QR コードを読み取りフォローしてください。



LINE ページ



Facebook ページ

編集後記

皆さん猛暑の中、いかがお過ごしでしょうか。体調を崩している利用者さん、職員の方はいませんか。体調管理に大事なものは、睡眠と食事です。よく寝て、よく食べましょう。まだまだ暑い夏は続きますが、元気に過ごして参りましょう。(川口真史)



新副会長挨拶

愛知県知的障害者福祉協会副会長
わらび福祉園 管理者 熊谷かの子

このたび宮路副会長の退任にあたり副会長に選出されました、わらび福祉園で管理者をしております熊谷かの子と申します。

学生時代は、数年勤めて結婚したら専業主婦になるだろうと漠然とした思いでいた自分が、この世界で30年近く勤めさせていただいております。ましてや今回のような大役が回って来ようとは予想だにしていなかったことでした。

以前、私共の法人の前理事長から、「人は、良い人や出来事に会っていてもその縁に気付かない人・せっかく気付いていてもその縁を生かせない人・袖すり合う僅かな縁を“えにし”として生かす人の3種類ある」という話を聞いたことがあります。私も縁を生かせる人になりたいと常々思っておりました。私は福祉協会の会議や研修等さまざまな活動に参加させていただくようになって、愛知県は元より全国各地の素敵な方々や実践と出会う機会があり、多くの事を学ばせていただいた事ととても幸せに感じております。まさに福祉協会は素敵なお縁と巡り合える場だと思います。

現在、事業所の多くが人手不足ということもあり、サービス提供が事業所や法人内で自己完結するという内向きになりがちなか中で、社会的には「地域共生社会」の実現に向けての動きが求められています。

我が事・丸ごと誰もが周りの事を気にしていく社会を創るには、障がいの事に関しても誰もが我が事として感じられるように周知し、行動していくことが必要とされています。



福祉協会は、そうした社会のニーズにも対応出来る力量が養える場でもあると思います。協会には今まで学ばせていただき、育てていただいた恩義を感じています。微力な私が副会長という立場を与えられ、その恩義に報いるために何が出来るか悩みましたが、私なりに福祉協会だからこそ経験できた事や、素敵な人々と出会えた喜びを、今度は若い人たちが実感出来るように“人と人の繋ぎ役”として、少しでもお役に立てるよう努力してまいります。皆様と共に、よりよい活動を目指していきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



中堅職員研修

福祉協会の研修委員会で主催する中堅研修は今回で3回目（3年目）を迎えました。日々現場で切磋琢磨している中堅職員に向けて、2日間じっくりと語り合い、多くの人と繋がりを持ち、その中から新たな気づきや発見を通して、明日からのエネルギーを充電する機会となることを目的としました。さらには、中堅職員という立場であるからこそ、事業所や法人からは今以上に主体性と創造性が求められるため、それを具現化するまでのプロセスに着眼点を置けるような演習が出来ないか研修委員で話し合い、3年目で新たなチャレンジをすることになりました。

はじめに、社会福祉法人睦月会の綿祐二理事長よりご講演を頂きました。現場の視点から具体的な事例をもとに、支援とはどういうことなのか？という問いを投げかけて下さいました。支援には正解はない、だからこそ常に考え続け、自分自身に問い続けて欲しいというお話でした。その内容を引き継ぎ、ワールド・カフェ方式によるグループ演習を行いました。「利用者にとって良い支援とは何か？」「私たちの理想の職場とは？」「理想（夢）を実現するために必要なことは？」の3つの問いを設定し、対話を行いました。ワールド・カフェが終了すると、ここからが新たなチャレンジです。



2日目のグループワークに向けて、各グループでテーマ設定をする時間を設けました。①テーマは自由 ②グループメンバーは同じ職場の同僚とする ③グループメンバーで話し合ったことを形にしてプレゼンをする ④本気で取り組みたいアクションプランにする という4つの条件を設定しました。その後、2日目のグループワークにかけて、参加者（中堅職員）が主体となり真剣かつ活発な意見交換が行われていました。最後に、①なぜこのテーマにしたか？②話がどのように展開されたか？③結果どうであったか？を含めてプレゼンをしました。協会役員が上司役となり、プレゼン後の評価を行いました。ここでは、「伝える」ということの難しさと重要性を感じた参加者が多かったのではないのでしょうか。2日間という短い期間ではありましたが、何もないところから語り合い、それが具体化され形になり、人に伝えるというところまでを全て参加者が主体的に取り組みました。それは、中堅職員が日々の経験のなかから蓄積されたエネルギーに満ちているという証であると実感できる研修でありました。



期日：平成30年6月7日～8日
会場：蒲郡荘

第55回 東海地区知的障害関係施設職員研究協議会

平成30年7月12日（木）・13日（金）にロワジュールホテル豊橋にて東海地区知的障害関係施設職員研究協議会が開催されました。368名の参加者が集まり盛会裏に終えることができました。

本大会のテーマは「福祉のしんか」。本年4月に障害者総合支援法の改正により、新たな事業の創設や報酬の見直しが行われました。時代の流れや制度改正などの変化がある今だからこそ、福祉の原点や支援の本質をしっかりと見つめ直し、福祉の未来を考えていくことが求められています。次々と押し寄せる波のように変革する時代の中で、我々職員が直面している課題は「いかに変化し、適応するか」です。



ご本人の幸せを願い、より良い方向へ変化するには、本人主体の福祉の本質を見極める“真価”、その上で在り方を見直し検討する“深化”を意識することは不可欠です。そして、これらを踏まえ、スモールステップを積み重ねる先に新たな“進化”があります。今回は、「福祉のしんか」について共に語り、深め合うべく、始めにタイトル「生きるってシアワセ！」を公益財団法人日本骨髄バンク評議員である大谷貴子氏による記念講演を行いました。その後、各分科会に分かれ、



実践発表、意見交換が行われました。

第1分科会：テーマ「子どもたちの育ちを支えたい！」

～私たちだからできることを見つけよう！～

第2分科会：テーマ「多様化時代に沿った入所施設のチャレンジとは何か」

第3分科会：テーマ「現場に必要な意志決定支援」

～利用者のエンパワメントを高めるという視点から考えてみよう～

第4分科会：テーマ「生活介護事業所における生産活動の現状と課題」「就労移行支援事業所における現状と課題」

第5分科会：テーマ「多様化する暮らしを自分らしく生きること」

第6分科会：テーマ「相談支援と共生型サービスとの関係」

～新事業への取組を考える～



2日目のプログラムは演習です。

〔演習A：アンガーマネジメント〕

講師 日本アンガーマネジメント協会シニアファシリテーター 鎌田博幸氏

アンガーマネジメントは、混沌とした気持ちを整理したり、状況を客観的に見る力を育てることを通じて、衝動性が高まっても自分で沈静化し適切な表現や問題解決ができるような力を学ぶプログラムです。利用者の権利擁護、虐待防止に欠かせない技法です。

